

#### 4 第1期実施計画期間の取組

## 基本政策Ⅰ 人間としての在り方生き方の軸をつくる

日々の学習活動を通して子どもたちが将来に対する夢や希望をもち、将来の社会的自立に必要な能力や態度を育てていく教育の実践がすべての学校で求められています。本市ではこれを「キャリア在り方生き方教育」として、新しい教育プランにおける学校教育の重点施策として位置づけ、子どもたちの自尊感情や規範意識、学ぶ意欲、人と関わる力等を小学校段階から系統的・計画的に育てていきます。

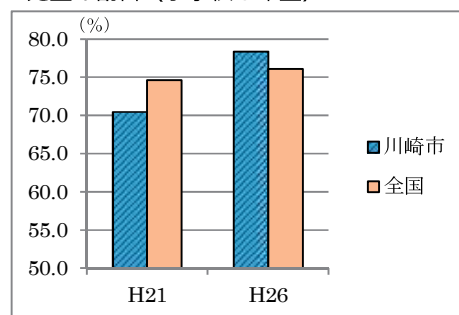
### ■現状と課題

グローバル化や少子高齢化など急激に変化している社会の中で、産業構造や就労形態などの大きな変化に十分に対応できず、学校から社会への移行が円滑に行われていない子ども・若者の実態が指摘されています。その背景には、例えば、コミュニケーション能力の不足、低い自己肯定感、他者意識や他者への配慮の不足、規範意識の低下、また学習と将来との関係が見出せずに学習意欲が低下していることなど、「社会的自立」に必要な能力や態度に関わる子どもたちの様々な課題が存在しています。

このことから、子どもたち一人ひとりが「生きる力」を十分に身に付け、しっかりとした勤労観、職業観を形成しつつ、将来直面するであろう様々な問題に柔軟かつたくましく対応できる力を育てることが重要な課題となっています。そのような能力や態度をしっかりと子どもたちに身に付けさせ社会に送り出すことは、学校教育の責務であると言えます。

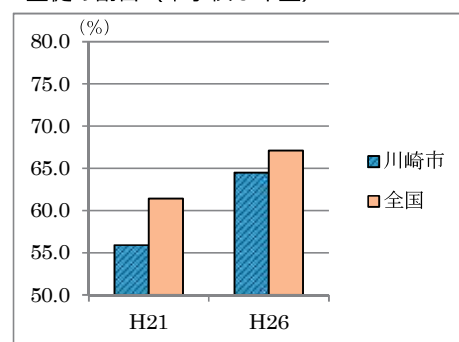
調査結果にあるように、本市の子どもは、「自尊感情」は改善の傾向にありますが、「将来に関する意識」については、全国と比べると低い状況が続いています。

■「自分にはよいところがあると思う、どちらかといえばあると思う」と回答した児童の割合（小学校6年生）



資料：全国学力・学習状況調査

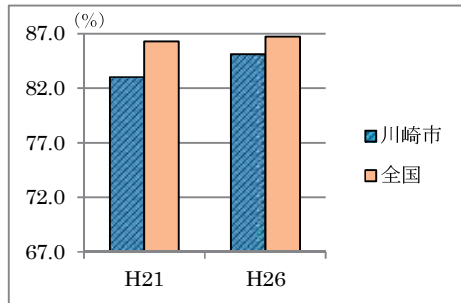
■「自分にはよいところがあると思う、どちらかといえばあると思う」と回答した生徒の割合（中学校3年生）



資料：全国学力・学習状況調査

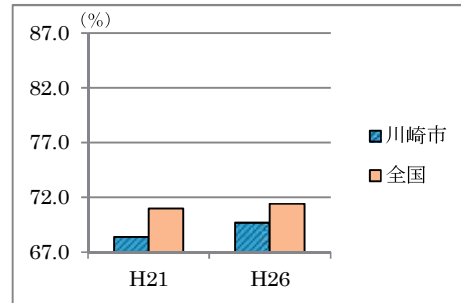
基本政策 I 人間としての在り方生き方の軸をつくる

■「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合（小学校6年生）



資料：全国学力・学習状況調査

■「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した生徒の割合（中学校3年生）



資料：全国学力・学習状況調査

子どもたちのキャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程）を促すために、これまで取り組んできた本市の学校教育を「キャリア在り方生き方教育」の視点から幅広く見直し、子どもの社会的自立に向けて必要な能力と態度を、成長段階に応じて系統的・計画的に育てる教育が求められています。

■政策目標

「キャリア在り方生き方教育」をすべての学校で計画的に推進し、すべての子どもに、社会で自立して生きていくための基礎を育みます。

■参考指標

（基本政策の目標の達成度を評価する際に参考とするための数値であり、この数値のみをもって基本政策の成果とするものではありません。基本政策の評価は、事業の進捗状況等を踏まえて総合的にを行います。）

指標名	自尊意識					
指標の説明	「自分にはよいところがあると思わない」と回答した児童生徒の割合					
実績値(H26)	小6	6.2%	目標値(H29)	小6	0%	
	中3	10.0%		中3	0%	

【出典：全国学力・学習状況調査】

指標名	将来に関する意識					
指標の説明	「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童生徒の割合					
実績値(H26)	小6	85.1%	目標値(H29)	小6	87%	
	中3	69.7%		中3	72%	

【出典：全国学力・学習状況調査】

指標名	「キャリア在り方生き方教育」の推進状況	
指標の説明	「キャリア在り方生き方教育全体計画」作成校数（「キャリア在り方生き方教育」は、H27から推進協力校にて実施、H28から全校実施予定）	
実績値(H26)	—	目標値(H29) 178校

【出典：川崎市教育委員会調べ】

## 施策1. キャリア在り方生き方教育の推進

社会の様々な領域において構造的な変化が進行する中、社会人として自立した人材の育成が強く求められる一方、若者の「学校から社会への移行」が円滑に行われていない状況が課題となっています。かつて子どもたちは大家族や近隣の人々と形成された集団の中で、知らず知らずのうちに多様な年齢層の人々と付き合う態度やスキルなどの社会性を身に付けてきました。ところが、近年の子どもたちは、家庭環境や遊びの変化により、日常生活を通して人間関係の基礎を身に付けることが少なくなっています。また、将来との関連性が見えないままでの学びの中、学校での学習の意義が見いだせず学習意欲が低下したり、子どもたちが将来に不安を感じたりしていることも課題となっています。

そこで、本施策では、子どもたちの社会的自立に必要な能力や態度の育成と、共生・協働の視点から、教育の在り方を幅広く見直し、これまでの取組を価値づけ、改革していくための取組「キャリア在り方生き方教育」を推進していきます。小学校から12年間の系統的な「キャリア在り方生き方教育」を通して「自分をつくる」「みんな一緒に生きている」「わたしたちのまち川崎」の3つの視点で、「学ぶこと、働くこと、生きることの尊さを実感し、学ぶ意欲をもった人材」、「共生・協働の精神をもち、共生社会を実現していく人材」、「心のよりどころとしてのふるさと川崎への愛着をもち、将来の川崎の担い手となる人材」を育成していきます。

- 「キャリア在り方生き方教育」に関する研修の実施やリーフレットによる啓発、推進協力校における検証など、平成28年度からの全校実施に向けた取組を進めます。
- 教師用資料である「キャリア在り方生き方教育の手引き」を活用しながら、児童生徒のための「キャリア在り方生き方ノート」を作成し、「キャリア在り方生き方教育」を推進していきます。

### 「キャリア在り方生き方教育」とは

一人ひとりの将来の社会的自立に向け、必要な能力や態度を育てる教育です。

社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育であり、子どもたちの社会的自立や共生・協働の精神を培う視点から、各学校における教育活動を幅広く見直し、これまでの取組を価値づけ、改革していくための理念です。

一般の「キャリア教育」に、共生・協働の精神を培うという視点と、郷土を愛し、将来のふるさと川崎の担い手を育成する視点を加え、本市では「キャリア在り方生き方教育」と名付けました。

基本政策 I 人間としての在り方生き方の軸をつくる

事務事業名	現状	事業計画		
		H27	H28	H29
<p>キャリア在り方生き方教育推進事業</p> <p>●将来の社会的自立に必要な能力や態度を育てていく教育を、平成 28 年度から全校で実践するため、手引の配布や研修により、「キャリア在り方生き方教育」についての理解を深めるとともに、指導体制の構築を図ります。</p> <p>●家庭との連携を意識したキャリア在り方生き方教育の推進を図ります。</p>	<p>●教師用「キャリア在り方生き方教育の手引き」作成</p> <p>●「キャリア在り方生き方ノート」（試作版）作成</p> <p>●推進協力校の募集・決定</p> <p>●啓発のための担当者研修</p>	<p>●手引きを活用した各学校の実践の支援</p> <p>●「キャリア在り方生き方ノート」作成・配布・活用</p> <p>●推進協力校での実践の支援と検証</p> <p>●保護者への啓発用リーフレットの作成・配布</p>	<p>●キャリア在り方生き方教育の全校実施</p> <p>●「キャリア在り方生き方ノート」増刷・配布・活用</p>	<p>→</p> <p>→</p> <p>→</p> <p>→</p>



教師用「キャリア在り方生き方教育の手引き」



「キャリア在り方生き方ノート」

- |                   |      |
|-------------------|------|
| 小学校 1、2 年         | ふれあい |
| 小学校 3、4 年         | ひろがり |
| 小学校 5、6 年 中学校 1 年 | つながり |
| 中学校 2、3 年         | はばたき |